

公共事業再評価調書 (3回目再評価)

主管課： 河川課

1 事業概要  (整備目的)	事業名： 天願川河川改修事業		前再評価年度：平成15年度	
	事業種別：総合流域防災事業	事業主体：沖縄県	(S47～H27)	
	事業箇所：うるま市	根拠法令：河川法	事業期間：S47～H29	
	総事業費(百万円)：14,888	費用内訳：補助 9/10	事業量(m) 6,515	
1-2 前再評価以降の計画変更	米軍基地内の用地買収に目処がついた天願橋下流の護岸整備を追加するとともに、浸水被害が多発する支川の川崎川取付部の護岸整備を計画に盛り込んだ。また、多自然川づくりに伴う用地費及び工事費の増加、ならびに地盤改良等の追加による事業費と事業期間の見直しを行った。			
2 再評価該当項目	<input checked="" type="checkbox"/> ① 再評価後一定期間(5年)を経過 <input type="checkbox"/> ② 事業の中止 <input type="checkbox"/> ③ その他( )			
3 再評価に至った主な要因 (具体的理由)	<input type="checkbox"/> ① 用地取得の困難 <input type="checkbox"/> ② 調査・設計の困難 <input type="checkbox"/> ③ 事業の拡大 <input type="checkbox"/> ④ 予算の確保 <input type="checkbox"/> ⑤ 手続き・法令の問題 <input type="checkbox"/> ⑥ 他事業との関係 <input type="checkbox"/> ⑦ 整備効果の問題 <input checked="" type="checkbox"/> ⑧ 当初計画が長期間 <input type="checkbox"/> ⑨ その他( ) 当初計画が平成27年度までの長期計画として設定している。			
4 事業の進捗状況 (H20.3時点)	項目	事業費(百万円)	整備(km)	用地取得(千㎡)
	計画	14,888	6.52	220.7
	実施済	10,474	3.00	160.1
	率	70%	46%	73%
4-2 前再評価以降の主な進捗	赤田地橋上流から津堅原橋までの約0.5Kmの護岸及び御山ぬ川橋の整備を行った。また、御山ぬ川橋下流の狭小部解消のため、右岸側のみ300mの護岸整備を行った。			
5 事業効果の評価指標 (検討年 整備期間+50年) (基準年 H20) (単位: 百万円)	① 一般資産	15,557	① 建設費	14,888
	② 農作物	1,592	② 維持管理費	5,062
	③ 公共土木施設等	26,354		
	④ 間接被害額	17,256		
	便益(B)	60,759		
	⑤ 残存価値	149		
	基準年換算(B)	31,152	基準年換算(C)	24,389
	費用便益比 (B/C) = 31,152 / 24,389 = 1.3			
6 事業を巡る状況の変化 (前再評価以降)	① 社会・経済： 具志川市、石川市、勝連町、与那城町の4市町合併によりうるま市が誕生した。平成17年度に沿川に幹線道路(県道具志川環状線)が供用開始された。 ② 地元・自治体： 集中豪雨等による浸水被害が多発していることから早期改修の要望がある。 ③ 利害関係者： 天願橋下流において、地主の同意が得られたため軍用地返還を申請中である。			
7 事業の必要性・効率性	① 事業の必要性・緊急性・有効性など： 近年は集中豪雨等による浸水被害が多発し、地元からは整備要請等もあることから、早期に完成を図る必要がある。 ② 事業の効率性(代替案等の可能性やコスト縮減)： 事業費70%、用地取得率73%と事業は進捗しており、現計画に多自然川づくりを取り入れ事業を推進する事が効率的である。 ③ 事業効果の発現状況： 平成19年度までに下流部の2000m及び中流部の750mの区間が完成するとともに、御山ぬ川橋下流の狭小箇所300mの区間が一部完成したため、同区間の浸水被害が軽減された。			
8 今後の対応方針・見直し	① 事業計画等： 事業に必要な予算の確保を図り、平成29年度の完成を目指す。 ② 対住民関係： 特に問題なし。 ③ 執行体制等： 現在の組織体制で特に問題なし。			
9 評価	<input checked="" type="checkbox"/> ① 事業継続(現計画) <input type="checkbox"/> ② 事業継続(見直し) <input type="checkbox"/> ③ 事業の中止			
10 その他 (前再評価での主な意見等)	・自然を取り込んで、川を蘇生させることは大事な仕事である。地域住民の意識を環境問題を含めて高めていく必要がある。 ・都市部だけでなく地方の河川も汚濁が進んでいる。今後の河川のあり方について、視野を広く持って取り組んで欲しい。			